



発行者
香川県生活科教育研究会会長
発行日 平成19年12月8日

NO.24

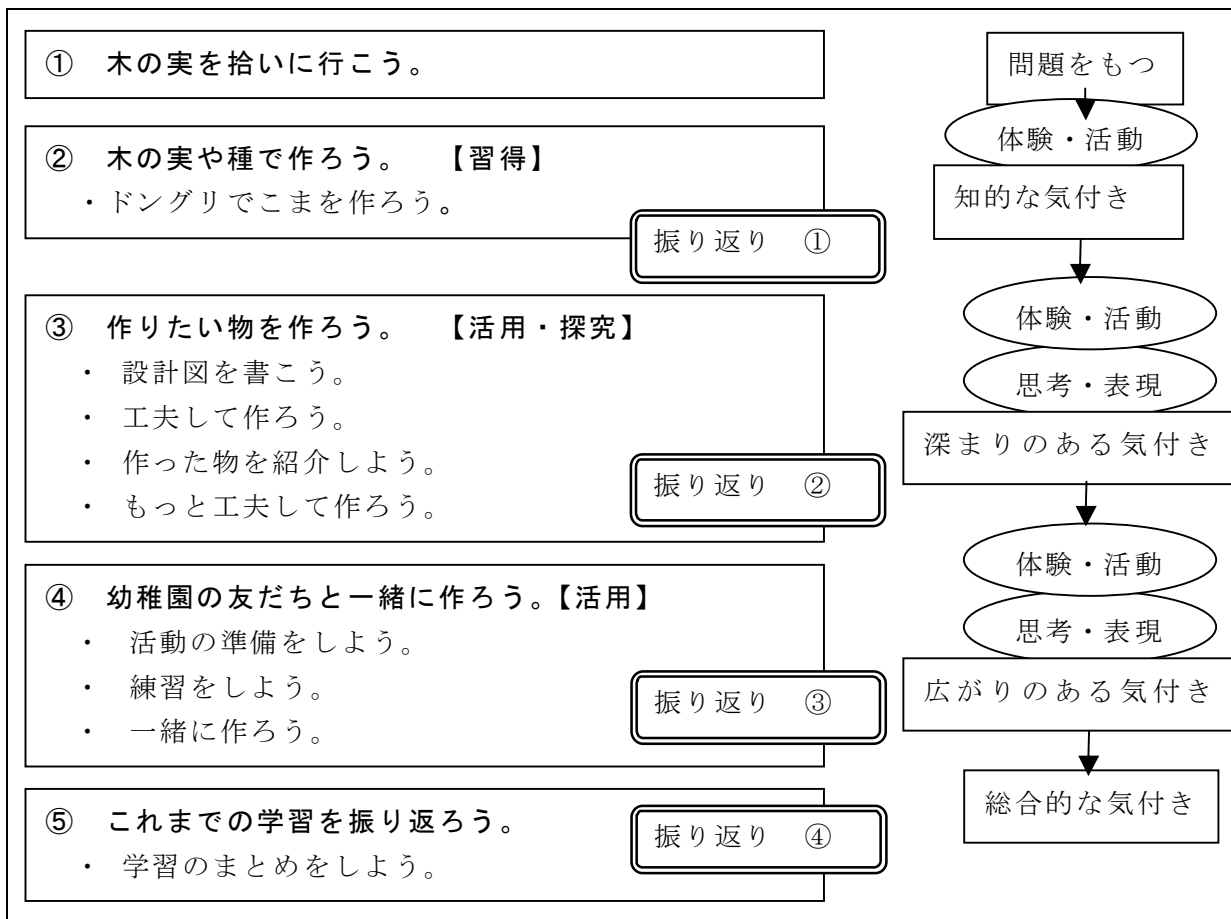
今回の内容 「振り返り活動」を通して、学びを深める実践

1 趣旨

本単元「あきとなかよしーつくってあそぼうー」は、木の実や種などの特徴を生かして、おもちゃや飾りなどの製作物を作り、友だちと一緒に遊ぶことを通して、季節の変化を感じとり、自然への気付きを深めていくとともに、実りの秋が育む自然物の生命力を実感することをねらいとしている。

本実践においては、「習得」・「活用・探求」・「活用」の過程で、「振り返り活動」の場を効果的に設定し、気付きの質を高め、学びを深めていこうとするものである。振り返り活動では、書くことを重視し、生活科ワークブックやワークシートに自分の考えや願いなどを書くことによって、自分がしていることの価値や活動の意味に気付かせたり、次の活動の意欲につなげたりした。思考と表現を一体化したノート作りを通して、学びを深めていった。

2 単元構成 「あきとなかよしーつくってあそぼうー」（全 10 時間）




3 実践の概要

(1) 習得の過程での【振り返り活動①】

きりを使って自分のドングリごまを作り，こま回し大会を開いた。一度で終わらず，「今度は勝ちたい。」といろいろ作って試し，何度も競争をした。


こま作り



こま回し大会

10月26日(木)

名前()



きょうのこまをわしたいかいで、チ
ャンピオンになりました。つまよ
うをまがくにまわることができた
からかな。

気づき 〈こま回し大会後〉

- ① 爪楊枝の芯がまっすぐ
になっていると安定して
よく回る。
- ② 太いドングリの方が長く
回った。
- ③ きりを上手に使えるよう
になってよかった。

感想

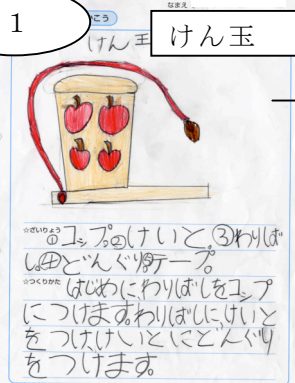
- ・ よく回るこまが作れてう
れしかった

大きさや形の違うドングリで作ったり，芯の長さや芯を指す場所を考えて作ったり，何度も作り直して試行錯誤する姿が見られた。納得するまで作ったり，試したりする活動があったので，実感としてとらえることができ，上記のような確かな気づきが引き出せたのだろう。相互に交流しながら作る中で，よく回るこまを作るには，①芯のつけ方 ②芯の長さ ③ドングリの形を工夫するとよいことを習得できたようだ。さらに，この習得過程での活動がベースになり，次の活動への意欲を図ることができた。

(2) 探究の過程での【振り返り活動②】

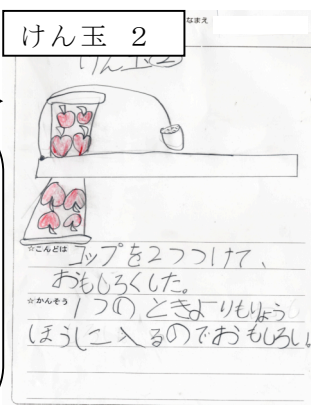
例 1

けん玉 1




①カップ(けいと)③わりば
し④どんぐり⑤テープ
⑥はめにわりばしを
につけまわりばしにけい
をつけけいとにどんぐり
をつけます

けん玉 2



①カップを2つつけて、
おもしろくした。
②1つのときよりゆ
まう(こ)入るのでおもしろ
くした。

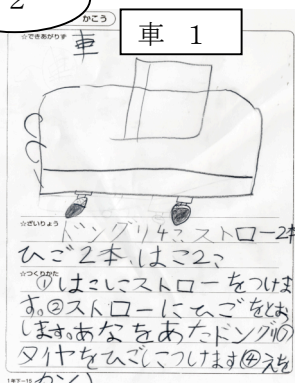
初めのけん
玉のカップは、
1つだったが、
2つに改良し
ておもしろく
した。



穴を開けてひもを
通すと落ちないよ。

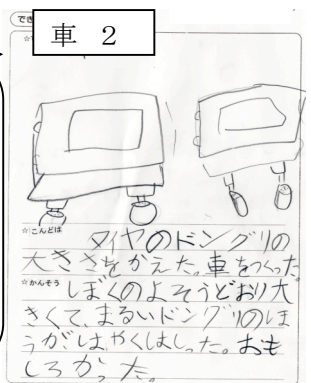
例 2

車 1




①ドングリ4本②ストロー2本
③はご2本④はご2つ
⑤はごにストローをつま
す⑥ストローにちごを
はまおなをあだドングリ
のタイヤをまごにつけます⑦え
かく

車 2



①タイヤのドングリ
の大きさをかえた車をつ
くた
②はごのよさうどお
り大きくてまるいドング
リのほごがはやくまわ
るからよかった。

同じ車を2個
作り，タイヤの
ドングリの大き
さを変えた。太
いドングリの方
が速く走った。



気付き③ 規範意識・学習態度



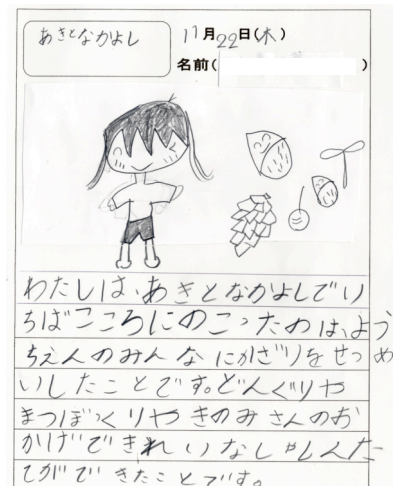
姿勢よく聞いていたよ。

幼稚園児とおもちゃ作りをする中でこれまでの学んだことを生かして技術面のコツをアドバイスしたり、うまくできたときにほめ言葉をかけたりするなど相手の気持を考えた言動が多く見られた。そして、交流を振り返ることで、幼稚園児の学習に対する態度のすばらしさや技術面のがんばりを認識するなどいろいろな気付きを生み出した。さらに、幼稚園の子の態度のすばらしさが刺激となり、自分たちの行動を振り返ることにもつながった。

(4) 【振り返り活動④】—本単元を振り返って—

これまでの学習を終え、単元全体を振り返っての感想や学んだことをワークシートに書いた。「いろいろな物が作れて楽しかった。」に始まり、「こま回し大会が心に残っている。」「きれいなリースができたので、お家で飾りたい。」「車を競争させておもしろかった。」などさまざま書いていた。また、「来年もドングリがたくさんなるのかな。」と自然の恵みへの重いが書けていた子もいた。

ここでは、今までの楽しい活動を振り返り、「大発見して、誉めてもらってうれしかった。」や「いろいろなことを知ることができた。」など学習して充実したことや新たに分かったことのうれしさが伝わってきた。幼稚園児との交流で園児のすばらしさに気付いた子もいた。また、木の実でいろいろ作れることの楽しさや素材のありがたさに気付いた子もいて、この単元のねらいでもある自然認識や自然のすばらしさに気付くことに有効だった。



4 成果と課題

- ポイントとなる活動で振り返る場を設けたことで、「活動の意欲を高める気付き」や「科学的思考の素地を養う気付き」や「友だちや自分のよさへの気付き」や「自然認識の気付き」や「技能を習得するコツへの気付き」などさまざまな気付きをとらえることができ、学びの幅が広がられた。
- 特に、振り返り②のように、学びの質を高めること、つまり、一度自分が学んだことを見直し、それを修正したり、改良したりすることで気付きを深めることができた。
- 生活科ワークブックを中心に、気付きをファイリングすることで学習の定着を図ることができた。また、たまったファイルは、学習した証として実感することができ、学習の機動力や個の自信となったのではないかな。
- 個人がとらえた気付きを交流し合い、共有するのが理想だと思うが、全体に紹介するタイミングが難しい。学習の参考となる気付きを効果的に広めることの手だてや方法、タイミングなどを考えていきたい。